

## 世代会計に関し、検討すべき事項（案）

### ○目的

将来世代の負担軽減を通じた世代間公平の確保という社会的合意の形成にあり、そうした観点から具体的な世代会計の設計を行う必要がある。

### ○モデルの在り方

将来の経済予測の中で政策変更のマクロ経済への影響が考慮される観点からは一般均衡モデルが適当と考えられるが、複雑で作業面における負担が大きい。複数ケースでの推計結果を示す必要性があると考えられることから、より簡便な部分均衡モデルによることとしてはどうか。

### ○過去の受益と負担の取扱い

### ○非移転支出の取扱い

### ○将来世代の細分化（資料 1 - 2 参照）

社会的合意を得ていく観点から有益であると考えられるが、将来の政策についての仮定（財政再建スケジュール、債務残高の制約）が必要となる。現実的な仮定をどう設定するか。

### ○成長率、利子率、賃金上昇率、物価上昇率等および人口構造の前提の在り方

### ○世代会計の推計結果の表示方法（資料 1 - 2 参照）

以上